

# 県議会9月定例会

## 日本共産党の一般質問

高瀬菜穂子



### 子どもの貧困対策

### 県知事のイニシアで促進を

全国で初めて県単位で「子どもの貧困」調査を実施した沖縄県。県知事が先頭に立って就学援助の充実、給付制奨学金、児童支援員の配置、ひとり親家庭支援など、総合的な取り組みを開始しました。

高瀬菜穂子県議は、8月に行った沖縄調査を基に、こうしたとりくみを紹介。「独自の子どもの貧困調査を行い、リアルに実態をつかむ」「市町村任せにせず予算をつけて就学援助を充実」「県の奨学金の一部を給付制に」の3点にわたって要望しました。

知事は、貧困調査の実施については明言を避けました。教育長は就学援助について「周知徹底」を行うものの財政措置は「国に要望」、給付制奨学金についても「国の動向を注視し検討」と自主的判断を示しませんでした。



ひとり親家庭支援施設「沖縄県マザーズスクエアゆいはと」（与那原町）視察 中学生への学習支援風景

### 中小企業支援

### 制度の充実、予算の拡充を



県工業技術センター（大川市）視察

県内の中小企業は、企業数で99.8%、従業員数で79.8%を占め、従業員数5人以下の小規模企業数は中小企業の83.6%です。まさに中小企業の活性化こそ本県経済の決め手です。

高瀬議員は、中小企業振興条例に基づき、

小規模事業者の経営改善のためのきめ細かな支援を行う「よろず支援拠点活動」の充実や「小規模事業者持続化補助金」の活用をすすめるとともに、国に対し制度の充実や予算の拡充を要望するよう求めました。

### 危険で莫大な維持管理費

### 白島石油備蓄基地の撤去を



世界に類を見ない、巨大な白島洋上石油備蓄基地

北九州市若松区の沖合8キロに浮かぶ「白島石油備蓄基地」。戦艦大和の1.5倍の貯蔵船が8隻も並ぶ、外洋に面した巨大基地です。想定外の自然災害が続く昨今、もし爆発すれば北九州市や遠賀郡など「火の海になる」不安があります。オイルインから20年、一度も原油を使ったことがない基地の維持管理費は、年間82億円強。現在日本の石油備蓄量は、国際エネルギー機関の備蓄基準の倍以上もあり十分です。「危険で莫大な費用がかかる白島備蓄基地の撤去を国に求めよ」と迫る山口律子県議に、知事は「国が判断するべきもの」と答えました。



山口律子

### JR 駅無人化

### 「丁寧な協議を求める」と知事答弁



あまりにも横暴なやり方

管内過半数の駅を無人化したJR九州。来年3月には、筑豊本線など新たに無人化を進める計画です。

山口議員は、すでに無人化された香椎線などの例をあげ、安全性や利便性の問題を指摘。

一方的に通告するだけで関係自治体や沿線住民ともまともな協議をしようとしないJR九州の姿勢を厳しく批判しました。

知事は「沿線自治体に対し丁寧な協議を行うようJR九州に求める」と答弁しました。

検索 <http://www.jcp-fkengidan.jp>